

特別支援学校におけるキャリア教育の早期化 ～遠隔職場実習と出前授業～

株式会社沖ワークウェル 代表取締役社長 堀口 明子



これまでなかなか進まなかった「在宅勤務」が、コロナ禍をきっかけに急速に広がっている。教育現場でも「オンライン授業」が進展した。株式会社沖ワークウェル（以下OKIワークウェル）は、沖電気工業株式会社（以下OKI）の特例子会社として、通勤が難しい重度障がいのある社員の在宅雇用を始めて16年になる。自社開発のバーチャルオフィスシステム「ワークウェルコミュニケーター®」を活用し、自宅にいてもオフィスで仕事をしている雰囲気を作り、疎外感や孤独感をもつことなく仕事ができる環境を実現している。現在56名の社員が全国21の都道府県で在宅勤務をしている。また、その経験を生かし、特別支援学校と連携して勤労観・職業観を育むキャリア教育支援活動を実施している。

1 在宅勤務を始めるきっかけ

朝8時を過ぎると、パソコン上の「ワークウェルコミュニケーター®」画面に社員の名前が一人また一人と表示され、続々と出社してきたことがわかる。朝は新人と指導者が打合せを行うので、「おはようございます。××です。〇〇さん宜しければ、会議室1番にお願いします」「おはようございます。〇〇です。会議室に移動します」と、元気に呼びかける声が聞こえてくる。これがOKIワークウェルのいつもの朝だ。

在宅勤務への取組は1996年まで遡る。当時、OKIらしい社会貢献を考え、通勤が難しいために働くことを諦めている重度障がいのある方がいることを知る。私たちの企業理念「進

取の精神」は、従来の慣習にこだわらず、進んで新しいことに挑戦することだ。OKIの得意なITを用いて会社と自宅をつなぎ、自宅を職場にすれば、重度障がいのある人も働くことができるという思いからチャレンジした。働く人が会社に行くという慣習にとらわれず、「会社に行かない会社員」を誕生させたのだ。

年々在宅勤務者は増え、仕事もホームページ制作に加えWEBシステムの開発、似顔絵・ポスター・名刺等のデザイン、データ入力や加工、委託訓練や実習等の教育業務を行うなど幅広くなった。それに伴い、業務基盤となるコミュニケーションシステムが必要となり、「ワークウェルコミュニケーター®」を開発した。

2 在宅勤務を支える独自開発システム

「ワークウェルコミュニケーター®」は最大100名がネット上の仮想空間で会議ができる常時接続型システムだ。スピーカー・マイクをパソコンに接続してソフトを起動するだけで、すぐに利用できる。オフィスに相当する共用と9つの会議室があり、接続中の人が表示される。現在どこにいるのか、呼び出してよいか等の状況も一目でわかるのが特長だ。本社でも在宅勤務者の自宅オフィスでも、引切り無しに社員の声が聞こえ、業務に必要な不可欠なものとなっている。常につながっている安心感と、仲間を呼び合う声が響きあう環境が孤独感の解消に役立っている。このシステムは遠隔職場実習等でも利用しており、特別支援学校の先生や生徒の幅広いニーズに応えている。

3 キャリア教育支援活動への取組

OKI ワークウェルの使命の1つとして国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）実現への寄与がある。SDGsは2015年9月の国連サミットで採択された17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」を基本理念に、世界が1つになって持続可能なより良い社会をつくろうというものだ。特に4番目のゴール「質の高い教育をみんなに」の達成に向けて、外出が難しい特別支援学校の生徒のためにキャリア教育を支援する「遠隔職場実習」や「出前授業」を積極的に行っている。

職場実習は就職を考える際に非常に役立つが、企業訪問が前提となるため、車椅子を使う生徒にとっては難しい。そのような経験ができる機会を作って欲しいとの特別支援学校からの要請をきっかけに、弊社は2004年より在宅雇用の経験を生かし、ITを使って自宅や学校にしながら職場実習が可能な「遠隔職場実習」を提供してきた。



遠隔職場実習に取り組む中学生

内容は電話やメールを使って社会人マナーを学び、コミュニケーションを取りながらビジネス文書の作成等を体験するものだ。講師は在宅勤務をしている社員が務め、生徒の状況に応じて実り多い実習になるようにしている。実習後はコミュニケーション力やIT力、取組姿勢を評価し、フィードバックする。

日頃ご両親や先生といった限られた大人としか接しない生徒が多く、あうんの呼吸で理解してもらえる環境に慣れているため、わからないと口に出すことが苦手なようだ。そのため、仕事をする上でわからないことをそのままにはいけないことを教え、素直に口に出して質問できるように導いている。学校関係者の方との連携により実施回数を重ね、2020年12月現在で全国62校延べ204名の生徒が体験している。

「出前授業」は2011年より始め、これまで全国64校に実施した。私たちが学校を訪問し、特別支援学校の生徒に対して、働く意義、働き方、在宅勤務の紹介、電話やパソコンなどの重要性、自立のために必要な心構え等を話している。授業には先生や保護者の方にも参加いただき、在宅勤務への理解を深める機会にもなっている。実際に在宅勤務で働く重度障がいのある社員が話すと、現実の働き方として在宅勤務が受け止められる。生徒の就労や学習意欲の向上につながるようだ。このような活動が評価され、弊社は2019年1月に文部科学省・経済産業省より第8回キャリア教育推進連携表彰「優秀賞」をいただいた。

「遠隔職場実習」や「出前授業」を続けたことで、体験者からは「人生観が変わった」「自分も働きたい」との声が多く寄せられる。これをきっかけに働くことを自分事と捉え、夢の実現に向けて行動を起こす人も増えている。しかし、在宅勤務で働くためには学ぶべきこともあり、準備に時間がかかる。働くことを将来の希望の一つとして具体的に考える機会があれば早いほど良く、キャリア教育の早期化が望まれる。特別支援学校と連携し、今後は中学部の生徒向けにキャリア教育を支援する活動を広げたい。そして、先生や保護者には生徒の働きたいという希望を叶える在宅勤務の応援団になって欲しい。